

(様式1)

平成30年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)

富山県広域消防防災センター (四季防災館) 消防課

2 施設所在地

富山市惣在寺1090-1

3 施設設置年度

平成24 年度

4 設置目的

自主防災組織、防災関係者の研修、県民の防災に関する知識の普及及び防災意識の高揚を図り、もって安全で安心な地域社会の形成に資することを目的とする。

5 施設概要

鉄筋コンクリート造 3階建て
延床面積 1,001.40㎡
主な施設
・各体験施設 (地震体験、初期消火体験、風雨災害体験、流水体験、応急救護体験、地域防災活動・救助体験、煙体験)
・山地災害と山岳救助コーナー
・映像視聴コーナー (津波・土砂災害体感シアター)
・富山の四季と地形コーナー

6 指定管理者

公益財団法人富山県消防協会

7 指定期間

5 年
平成27年4月1日 ~ 令和2年3月31日

8 利用者数及び利用 (使用) 料金収入の状況

(1) 利用者数 (人) ※この他、参考となる指標があれば追加

H26	H27	H28	H29	H30
31,225	30,339	32,731	34,140	40,115

(2) 利用 (使用) 料金収入 (千円)

H26	H27	H28	H29	H30
—	—	—	—	—

(3) 利用料金収入見込み額 (利用料金制導入施設の場合)

H26	H27	H28	H29	H30
—	—	—	—	—

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

平成30年度は、全国消防操法大会の開催効果もあり、利用者が40,115人(前年度:34,140人、前年度比:118%)と開館したH24年度に迫る利用があった。また、高校生の利用実績において、10校254人(昨年度:3校、144人)と新たな層の利用増加がある一方で、小学生の利用が3,158人と前年度(3,951人)から約800人の減少があった。このため、なお一層の学生向けのPRが求められる。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ・平成30年8月、熊本地震を体験できるよう地震体験装置をリニューアルした。
- ・液状化実験コーナーを常設した。

(3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

- ・平成30年度からFMラジオによる広報活動を新たに実施した。
- ・平成30年度からジュニア防災講座を年1回開催から年2回開催とした。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	来館者にアンケートの記入を依頼
回答者数	559名
結果	職員の対応・説明: 9割以上の方が「大変よかった」または「よかった」と回答 来館後の防災意識: 8割以上の方が、「強く意識するようになった」または「以前より意識するようになった」と回答
結果を踏まえた改善事項	—

② その他利用者の声を反映させる取組み

ホームページ等で利用者意見を受け付けている。

③ 主な苦情と対応

苦情内容: 開館時間内に閉館のお知らせをしたため、不快に感じた旨のメールを受けた。
対応: 苦情を申し出た方には陳謝、説明し、一定の理解を得られた。また、ミーティング時にこうした案件を職員全員に情報共有し、今後一層丁寧な来館者対応を心掛けている。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報の保護に関し、全職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

近隣施設とパンフレットを相互に設置し、相互の来館促進に努めている。また、イタイタイ病資料館連携無料バスを運行している。

(7) 施設・設備の維持管理

建物及び付属設備の不具合には、広域消防防災センターと連携をとりながら適切に対処するなど、適切に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

各災害体験施設で「体験上の注意」を明示することにより、注意喚起を行い、来館者の安全を確保している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ① 定期報告の受理
- ② 維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③ 個人情報に関するトラブルの有無
- ④ 危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	4
無	—
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

-

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

・来館者については、独自イベントの実施もあり、直近3年間は増加しており、一定の成果が認められるが、冬季を中心に、なお一層の来館者促進に努める必要がある。

・今年度は、過去2年間実施した子ども向けイベントを取りやめ、ラジオCMを放送するなど、新たな取り組みを実施した。子ども向けイベント実施月(8月)の利用人数を平成30年8月と比較すると減少しており、効果は薄いと思われる。実績や利用者のニーズを踏まえたイベント等の企画・立案が必要である。

・来館者アンケートでは、「防火防災の知識習得」を目的としたこれまでにはない新たな層の来館者が増えており、近年全国各地で発生している災害が影響しているものと思われる。また、展示内容に対するアンケートには要望として回答数の40%が「高齢者が日常、気を付けたいポイント」をあげていることから、災害の仕組み、体験だけではなく日常の防災対策(非常食、家具転倒対策等)を啓蒙するような説明、展示等の充実が今後必要と思われる。